

踏面ブレーキ車輪の 踏面損傷の発生条件判定

Determination of Development Conditions
of Wheel Tread Damages

【概要】

車輪踏面熱き裂は車両運用上の主要な課題の一つですが、発生機構が不明のため系統的な対策法が確立されていませんでした。

実車輪を用いた台上試験で踏面熱き裂を発生させることで、その発生機構を解析し、熱き裂の発生を抑制できる踏面ブレーキの使用条件を算出する手法を開発しました。この手法により、車両諸元およびブレーキシステム仕様に基づき、踏面熱き裂の発生条件が算定されます。車両設計や踏面制輪子の開発に適用できます。

【特徴】

踏面熱き裂の発生条件は「車輪温度」と「接線力(車輪／レール間に生じる駆動力)」によります。「車輪温度」は踏面ブレーキ条件によって、「接線力」は車両の加減速度によって決定されるため、これらの指標を用いて熱き裂の発生条件が算定されます。



図1 実車における車輪踏面熱き裂の例

【用途】

現在踏面熱き裂が発生している場合には「熱き裂が『いつどこで』発生・進展しているか」「どの対策がどの程度有効か」を、発生していない車両を高速化／高加減速化する場合には「どの程度まで熱き裂が発生しないか」を推定することが出来ます。この手法により対策の評価や発生予測を行うことで、車両品質向上とメンテナンスコストの低減に貢献します。

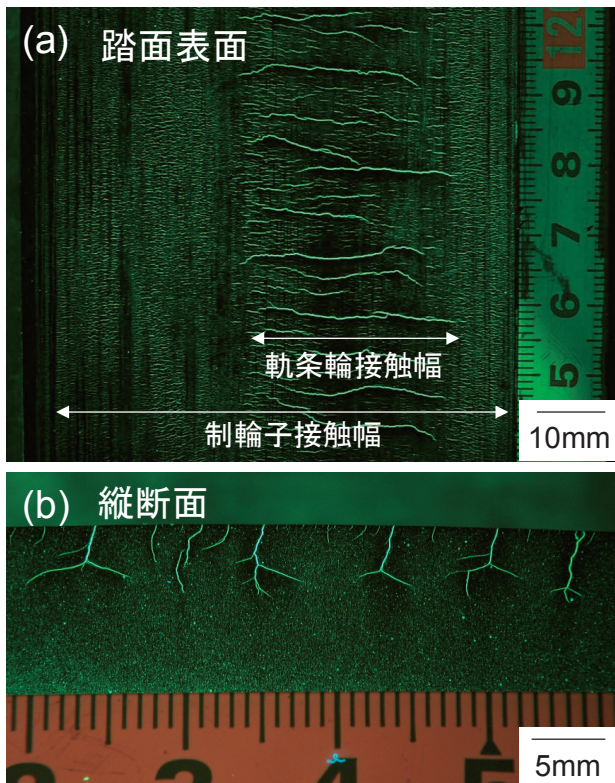


図2 定置試験で再現生成した踏面熱き裂

- 車輪温度
定置ブレーキ試験
FEMによる算定
 - 輪重
 - 空制動作状況
電制失効頻度etc.
- 車輪表面状態を算定 (例・下図)

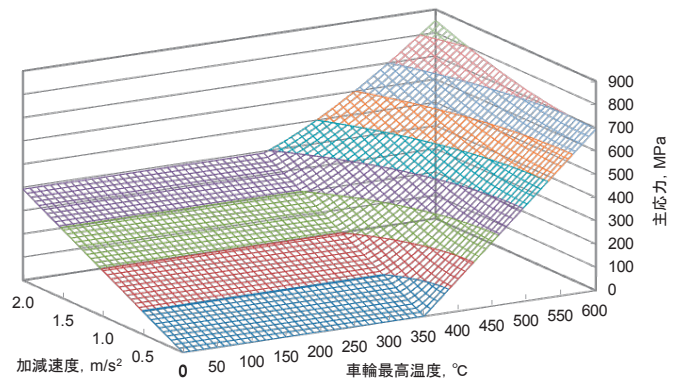


図3 熱き裂発生条件の算定法

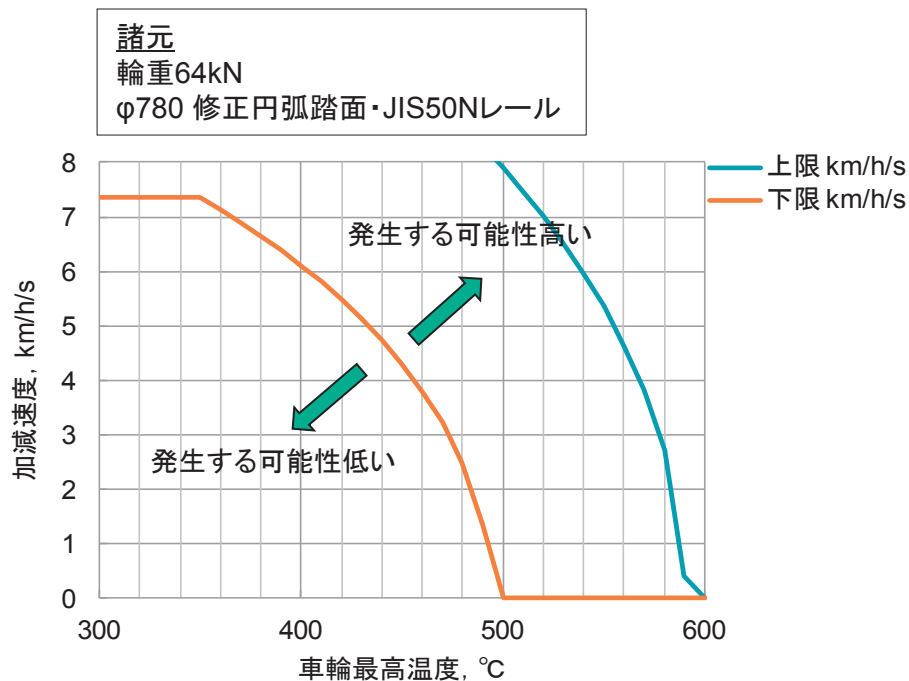


図4 踏面熱き裂発生条件指標図の例

公益財団法人鉄道総合技術研究所
材料技術研究部 摩擦材料